

神奈川民医連・震災支援ニュース

NO.33 2011年4月4日 神奈川民医連事務局発行 電話 045-320-6371 kenren@kanamin.or.jp

協同ふじさきクリニック 震災避難者の受診報告

事例1 63才。男性。福島県双葉郡から避難。腰部脊柱管狭窄症で通院していた。腰痛と大腿後部痛が増強し当院整形外科受診。問診時、本人から「被災した」という言葉は無かった。「薬だけ欲しい」と。初診ということもあり、どういう被害にあったのかその場で詳しく聞く事はしなかったが、今後の関わりの中で困っていることなど徐々に聞けていけたらいいと思った。次回予約をして帰宅。(整形外来・中村看護師)

事例2 70才。女性。福島県伊達郡から避難。高血圧、脂質異常症、不眠症で通院していた。投薬希望。馴れない土地での生活に加え病気を抱えているので不安が強いだろうと思う。早く元の生活に戻ることが本人にとって重要。今後受診の際は気持ちのケアもしていきたい。その為にも国や東電はきちんとした情報発信と対応をして欲しい。

(内科外来・荒木看護師)

支援者報告 患者さんへのアピール掲示

衣笠診療所

衣笠診療所では支援隊が決まった時点で、有志で作成、メンバー3人の顔写真が掲示されました。書き込みスペースには、3月18日の出発に向けて次のような激励メッセージも寄せられました。「現地の医師看護師の方々も限界を超える頑張りだと思います。心強い支援になると思います。かけながら応援しています。」「現地が心配です。頑張ってきてください。」「災害地の方々の心にあかりをともして下さい。」など、温かいメッセージに支援への意欲もますます高まりました。

現在は、この掲示コーナーに、支援隊全員の報告レポートと写真が載った、支援報告書が添えられています。また、法人の震災支援ニュースが貼りだされ、患者さんへのアピールを継続しています。



戸塚病院

戸塚病院では外来待合室にて左の内容を10分に一回の頻度で映像を流しています。

この効果も手伝って、現在までに窓口にて約11万円の募金を達成しています。

